

やじろま議会のオツチング

平成28年3月議会「なあなあ議会?! 審議を深め、決定に責任を！」



平成28年3月議会は、当初予三役の期末勤勉手当を値上げす算を決定する重要な議会。陳情ること、総務建設経済委員会6件、議員提出議案4件、町長で誰も反対せず、全員賛成で可提出議案39件が審議。本会議で決。しかし、本会議で否決。反4人の予算総括質疑、4人の一対、賛成の理由もわかりました。般質問がありました。

寸差で2件のどんでん返し

総務建設経済委員会でも可決された「特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」が本会議で6対7で否決。また、教育福祉常任委員会でも採択された「精神障害者の交通運賃割引制度適用を求める意見採択についての陳情」が8対5で不採択となるどんでん返し。前案件は、町長、副町長、教育長の期末勤勉手当の人事院勧告による値上げの町長提出議案。

この厳しい財政状況の中で様々な事業経費を削減しているのに、人事院勧告があったからという単純な理由だけで行財政運営の直接の責任者ともいえる

他の案件でも総務建設経済委員会は町長提出議案に全員賛成で傍聴していても争点がわからず、真摯な審議が行われていないように感じました。

後案件の本会議の野地議員の反対討論発言に渡辺議員が正してほしいと訴え、議会が騒然とする場面がありました。

野地議員の反対討論の中で

「精神障がい者の中には覚せい剤など薬物使用をして人を殺めた人、アルコール依存でDくを犯した人も手帳を持っていればハワイに遊びに行く費用も半額補助され、民間圧迫、運賃値上げで私たちに降りかかる」というような発言に対して、海外旅行費用への補助は行われていないと訂正を求めたものでした。

議長はハワイ旅行を沖縄旅行に訂正して決着。

議員が下調べもせずに、精神障がいを持った方たちへの差別や誤解を増長させかねない発言をし、それを議会が許したことは、二宮議会の質を問われる大きな問題では。

つじつま合わず予算総括質疑で厳しく批判しても予算賛成

予算総括質疑で村田町政や予算編成のあり方を厳しく追及したのに、本会議では渡辺議員以外賛成で可決。終始一貫した態度といえない議員もいました。

議会の決定責任は何処?

二宮町が小児医療費を中学生まで無料化したことで国庫負担金が減額されたことの廃止を求める意見書の提出は否決。

三月補正予算で可決されたシティブロモーション事業は国庫支出金2千2百万円がなくなり、費用の工面はどうするのか? 議会の決定責任は何処に?

議員やじろの自覚を

その1 町事業と一線を引くべき

議会の使命である「具体的な政策の最終決定」と「行財政運営の批判と監視」を完全に達成できるように議会の一員として懸命に努力するのが議員の職責です。

そのためには、町事業に議員は主体的に関わってはいけません。

審議の際に自分が主体的に関わっていたら、その行財政運営の審議に公正かつ適正さが損なわれる、または町民等から損なわれていると懸念を生じさせかねません。

今回、このようなことから気にかかる事例が三つあります。

一つ目は、露木議員が「みんなののみや紹介動画」の撮影を二月の朝市で友人である撮影者を朝市関係者に仲介していたこと。露木議員は、アピールカのある動画になるようにと一生懸命だったのでしようが、選定や監査に疑惑をもたれる恐れがあります。

二つ目は、野地議員が消防分団員になったこと。なり手が少ないからでしょうが、これも消防分団事業の予算審査を行う場合に問題が生じます。

三つ目は、議会の検討テーマの一つであった総合型地域スポーツクラブ。前田議員が主体的に関わっているようですが、今後、町事業とつながっていくようであれば、その立ち位置に一線を引くべきでしょう。

	議員名(敬称省略)	質問	傍聴コメント
予算 総括 質疑 3 月 7 日	野地 洋正 (1期) 教育福祉常任委員会 副委員長	1 大きく増額又は減額した部分の政策、施策、ポイント 2 機構改革の組織変更に伴うメリット価値、デメリットへの対処 3 各種補助金の見直し、補助額の基準 4 報酬の減、報償費増額見直しの経緯 5 地域再生事業の詳細内容と今後のスケジュール	予算や機構改革の組織変更について、具体的事例を出して厳しく追及し、予算の組み立て、今後のまちづくりの進め方もわかと期待しました。 しかし、答弁は現状説明程度しか得られず、どういビジョンに基づいた予算化で、どんな具体的取り組みを進めていくのかわかりませんでした。 予算案に批判的な質問のように思いましたが、結局予算案に賛成討論した理由がわかりません。
	露木 佳代 (1期) 議会だより編集委員会 副委員長	1 町民の声を反映した予算編成方法 2 団体補助金の見直しの方法 3 町内の小・中学校の将来像 4 「高いポテンシャルを持った町民」を生かすための施策	予算編成方法や補助金交付方法、町民を生かす方法を具体的な先進事例を例示して厳しく追及。学校の将来像については一色小学校の事例を挙げて質問し、町の具体的な取り組み方がわかと期待。 しかし、町からは、曖昧な答弁しか引き出せず、堂々巡りのように感じました。
	根岸 ゆき子 (4期) 副議長、議会基本条例推進委員会委員長	1 「住んで良かった」と幅広い世代に体感してもらえ るまちづくりの力点 2 総合戦略の長期的課題、短期的課題と捉えて いる仕分けを施策とともに具体的例示 3 「人」を生かして地域に根ざした施策の進め方 4 地域政策課、健康づくり課、地域包括ケアシステム 担当課長の新設の目的、求める業務内容、町民 にとっての変化 5 障害者差別解消法の合理的配慮を意識した取組	質問が取り留めなくて何を答弁してよいか困る場面も生じました。せっかく良いところをついた質問をしようとしているのですから、要旨を整理して質問してほしい。 「人」を生かすには責任の所在、権限などについても言及してほしい。 障害者差別解消法の合理的配慮を意識した取組については、職員の対応研修だけではなく、仕組みについても言及してほしい。
	二見泰弘 (2期) 議会運営委員会・議 会だより編集委員会委 員長	1 10年、20年先の中長期的な町財政の見通し、 予算編成方針の反映 2 財源の確保と歳出事業の在り方、取り組み 3 消防の事務組合化、ラディアン、図書館、温水プ ールなどの広域行政の中での運営 4 定住促進策とアピール、空き家対策、湘南ライナ ーの二宮駅停車 5 市町統合での経費削減などの近隣市町との協 議の見解	町財政、予算査定について厳しく追及し期待しましたが、抽象的な答弁しか引き出せず、財政については、もっと予算案からの具体的な説明、具体的な査定基準を引き出してほしいです。 様々な広域行政を進めることは、他市町の施設の利用など恩恵を受けるだけでなく、建て替え時などに負担を強いられることもあるという町長答弁に厳しく町の責任追及をしてほしいです。 しかし、二宮町の健全財政をアピールしてきた議員としての見解も伺いたかったです。
一般 質問 3 月 9 日	渡辺 訓任 (1期) 議会運営委員会副委 員長	国民健康保険税の負担軽減を求める まちづくりのビジョンと団地中央について	二宮町の国民健康保険税の負担が重いのは、資産割を取り入れているからだということが明らかになりましたが、改善の確約は取れず、残念でした。 団地中央にビジョンの位置づけがないということがわかりました。
	二宮 節子 (1期)	野良猫対策について	二宮町の野良猫によるトラブルの実態を厳しく追及しなかったため、対策の必要性が差し迫っていませんでした。それでは、具体的な対策をいくら提示しても実施につながらないと思います。残念です。傍聴者の中でも「どうしてこんな些細なことをとりあげるのか」という声がありました。
	小笠原 陶子 (5期) 教育福祉常任委員会 委員長	高齢者が暮らしやすい町にするために交通バリアフリー基本構想策定後の成果と課題、大型店舗の買い支えの啓発 地域福祉計画の策定状況、地域包括ケアシステムの準備との連携	交通バリアフリー基本構想策定後の成果と課題、大型店舗の買い支えの啓発については現状説明程度の答弁しか得られず、具体的な方向性を示し、町の考え方を引き出してほしいです。 福祉については百合が丘の協議会の事例をだして、具体的な質問で期待したが、仕組みの在り方についての見解は引き出せず残念でした。
一石 洋子 (1期)	二宮の子ども達に豊かな放課後にするために、学校内の公設民営の学童保育の現状と課題、民設民営の学童保育事業への町の支援、二宮町の放課後子ども教室の取り組み	毎回子どもたちへの熱い想いに共感し、一石議員の考える取り組みが実現するとよいなと思いますが、これでは町へのおねだりとも受けとらえてしまいます。課題をとらえながら、地域で実現するための仕組みの在り方を誘導してほしいです。	
質問しなかった議員(敬称省略・議長を除く)		杉崎俊雄、柳川司、善波 宣雄、桑原英俊、前田憲一郎	

6月議会を楽しもう!

議会傍聴や議会についての意見交換を
しませんか。

議会開催予定 6月3日～6月10日

しお風ブログ <http://shiokaze.blog.jp/>
で「議会ウォッチング」を発信し、「しお風い
こみ」で町財政、議会についての意見交換
もしたいと考えています。

お問合せ まちづくり工房「しお風」神保
☎090-3142-9358
メールアドレス shiokaze@mj.scn-net.ne.jp

任期中の町長退職金廃止は?

村田町長は、1期4年ごとの1千380万円もの退職金が世間感覚で理解が得られないと退職金ゼロを公約。二宮町が加入している神奈川県市町村職員退職手当組合に制度の見直し等の実現に向けて働きかけ、丁寧に進めていくと述べています。

阿久津那須塩原市元町長は、退職金ゼロも公約に掲げ、当選後特例条例で、退職時の月給を「1円」としました。

この結果、退職金事務を扱う県市町村総合事務組合は、退職金を退職時の月給と在任期間を元にした算定により20円(特例条例が無かった場合は19万3600円)としたそうです。

退職金は、退職時の給料月額に在任期間を乗じるようなので、特例条例で退職時の月給を「1円」と定めれば限りなくゼロに近い金額には出来るようです。

それにしても、世間感覚を考慮して退職金ゼロと宣言した人が、住民サービスの低下、住民負担を増しかねない予算措置をしたのに、町長の期末勤勉手当の引き上げを提案したのは何故?否決されるのがわかっていたのでしょか。